重要施策に係る町民説明会

日　時：平成２７年５月10日～20日
場　所：町内　各会場

1　開　　会

2　町長挨拶

3　全体説明（安平町の人口減少対策）　‥‥資料１

4　個別事業に関する説明
（１）道の駅・鉄道資料館の建設計画について　‥‥資料２
（回遊・交流ステーション形成事業）
（２）追分地区児童福祉複合施設整備プランについて　‥‥資料３・４
（役場庁舎を含む公共施設集約と再配置）
（３）地域情報コミュニティ放送「あびらチャンネル」の整備について　‥‥資料５

5　質　　疑

6　閉　　会　（アンケート用紙記入に係る説明）

資　料　1

安平町における人口減少対策

平成 27 年 3 月末現在
8,543 人

まちの
将来のために

粘り強く前進

1．安平町における人口減少の現状分析

◆昭和35年の14,485人がピーク
　⇒ 2010年(H22年)の国勢調査ベースで8,726人まで減少

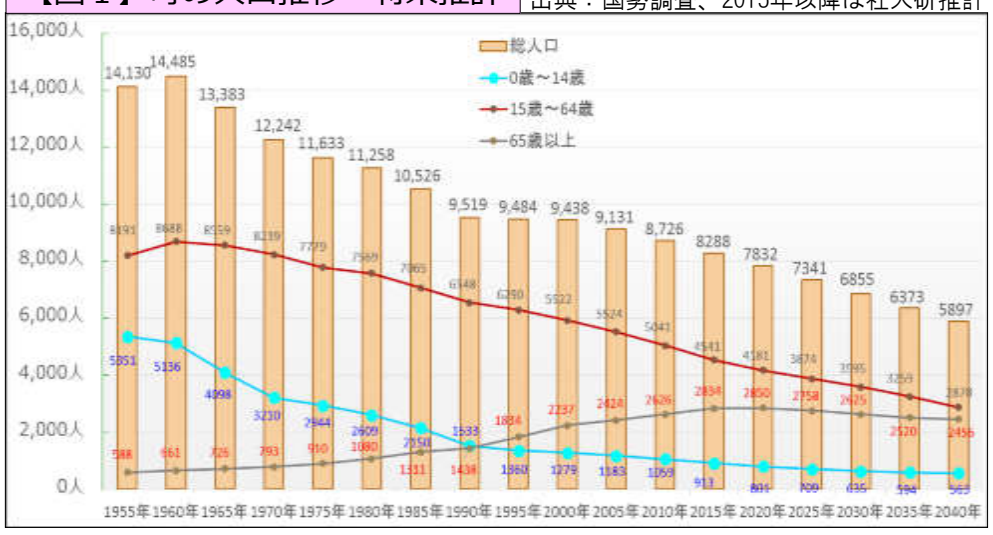
◆「年少人口」と「生産年齢人口」が減少、「老年人口」は増加
　安平町の「高齢化率は32.3%」
　⇒ 全道平均26.8%を大きく上回る高さ

◆2040年の人口は2010年に比べ32.4%減少し、
　5,897人（高齢化率41.6%）となることが予測
　↓

そもそも、なぜ人口減少対策が必要なのか？

＊ 町民(人口)は、「顧客」…経営は顧客なければ倒産
＊ 8,543人という現人口 …これをどう捉えるか
＊ 顧客の全国争奪戦 …何もしなくてよいのか？

【図１】町の人口推移・将来推計　出典：国勢調査、2015年以降は社人研推計



【人口減少要因の検証】

＜ 人口動態全般 ＞

平成15年度以降は、増加に転じることなく減少が続いており、特に合併以降は自然減＋社会減による人口減少から抜け出せずにいる。
⇒ しかし、過去20年を切り取って分析すると
　旧両町の政策によって人口増加に転じている期間がある。

＜自　然　増　減＞

平成５年以降 … **出生数が減少、死亡者は増加**
⇒ H16～H25年度の**出生数－死亡数の平均差**は**▲53.2人**

地区別にみる「1,000人あたりの死亡者数」…追分地区13.7人
早来地区10.6人

＜社　会　増　減＞

平成5年から7年ごろ…転入･転出ともに600人を超の異動
　現在は ⇒ 400人台「町が動いていない」
　その主要因は ⇒**「高齢化による流動人口の減少」**

社会減少のうち特記すべき事項としては、
「20代の若者」と「70歳以降の高齢者」の転出
　要因は ⇒ ①専門学校や大学卒業後に転出するケース
　②長年、町に住所を有していた高齢者が、生活上・健康上の理由により、子どものいる町外市町村や高齢者福祉施設・介護施設へ移るため転出
　⇒ **特に高齢者の転出については、その数が今後も増加**

課　題 >>>

① 平成18年度以降の自然減は「出生数の減少」と「死亡数の増加」の差の拡大が顕著

② 平成18年度以降の社会減は「20代の若者」と「高齢者の転出超過」が主な要因

③ 少子高齢化による転入・転出の総体数が減少している「流動人口の減少」

2．安平町における人口構造の現状分析

◆最も人口の多い世代
　⇒ 団塊の世代**「65-69歳」の区分**に該当する742人
　⇒ また、60-74歳までの区分に23.4%の人口が集中。
　今後も高齢化率の上昇が予測されている。

◆特に「旧追分町域」の構造は、2050年の日本の人口構造と酷似
　⇒ 継続した生産人口世代の定住促進を図らなければ、
　コミュニティを維持していくことも困難な時代を迎える
　↓
◆人口構造を変えるためには、
「生産人口」を増やし、「少子化に歯止め」をかけるかが鍵
　⇒ 将来出生数は緩やかに減少する予想

◆日本創成会議「消滅可能性都市」
　⇒ 2010年を100%とした2040年における20-39歳代女性の減少率が▲50%以上 …**「安平町は▲48.3%」**

【人口構造の現状と将来推計の検証】

＜ 人口構造全般 ＞

団塊の世代と呼ばれる昭和20年～25年生まれの層を筆頭に、その周辺年齢層の占める割合が高いことが特徴。
⇒ **年少人口**から**20代の若者層**までの人口比率は少ない
　「いびつな人口ピラミッド」

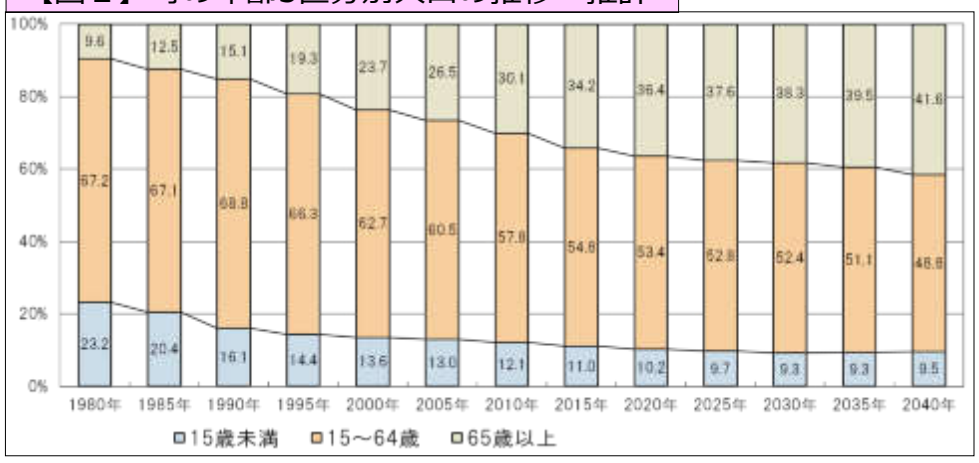
＜地区別の高齢化率＞

旧追分町域の高齢化率は36%
⇒ **極めて高い高齢化率** …「今後の地域維持を不安視」

＜出生数推移・将来推計＞

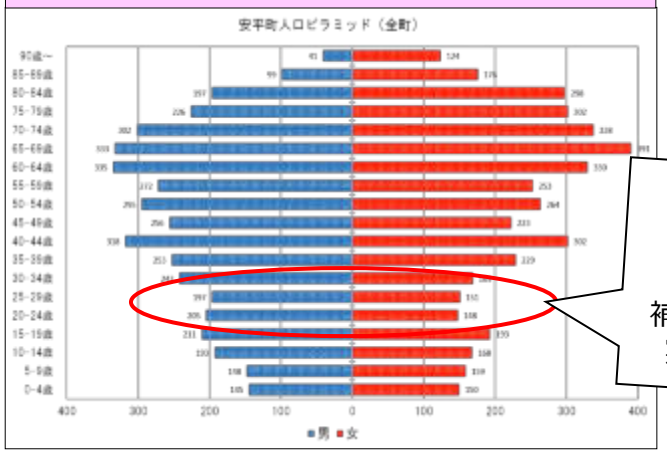
出生数は今後減少していくと予想
⇒**「消滅可能性都市」**に**安平町は該当**するという認識
　⇒ **「出生数の維持・増加**に向けた施策」
　「子育て世代の人口確保」の両輪が必要

【図２】町の年齢3区分別人口の推移・推計



【図３】安平町の人口構造（H26.3末現在）

出典：町住民基本台帳



この「くぼみ」を
膨らませ、
人口ピラミッドを
補正する政策・施策の
実行が求められる。

【図４】安平町の地域別高齢化率の現状

①追分地区

地区名	総人口	65歳以上(人)	高齢化率(%)	地区名	総人口(人)	65歳以上(人)	高齢化率(%)
旭	208	21	10.1%	緑が丘	191	86	45.0%
向陽	75	13	17.3%	本町1	52	24	46.2%
美園	87	43	49.4%	本町2	39	16	41.0%
春日	60	19	31.7%	本町3	60	28	46.7%
豊栄	75	31	41.3%	本町4	80	39	48.8%
弥生	69	27	39.1%	本町5	109	43	39.4%
若草1	86	37	43.0%	本町6	85	21	24.7%
若草2	255	141	55.3%	本町7	94	34	36.2%
若草3	291	112	38.5%	青葉1	126	76	60.3%
花園1	23	10	43.5%	青葉2	137	48	35.0%
花園2	103	45	43.7%	青葉3	104	40	38.5%
花園3	308	114	37.0%	中央	214	80	37.4%
花園4	83	40	48.2%	白樺1	251	41	16.3%
柏が丘	61	27	44.3%	白樺2	252	33	13.1%

②早来地区

地区名	総人口(人)	高齢者人口65歳以上(人)	高齢化率(%)	地区名	総人口(人)	高齢者人口65歳以上(人)	高齢化率(%)
瑞穂	93	50	53.8%	大町(ときわ)	287	98	34.1%
安平	533	222	41.7%	大町(あかね)	324	76	23.5%
緑丘	56	25	44.6%	栄町	680	193	28.4%
守田	69	20	29.0%	北町	294	139	47.3%
北進	473	146	30.9%	新栄	81	34	42.0%
東早来	124	38	30.6%	富岡	368	88	23.9%
大町(あけぼの)	383	102	26.6%	源武	184	11	6.0%
大町(しらかば)	251	53	21.1%	遠浅	786	250	31.8%

早来市街地は、**年を分けた宅地分譲、公営住宅等建設、アパート建設**によって、**「高齢化率の上昇の低減化」**に寄与

白樺１丁目・２丁目の低高齢化率は、**「宅地造成戦略」**によるもの
⇒ **市街地の高齢化率は極めて深刻**

課　題 >>>

- **① 現状の「40代より前の年齢層の低い構成比率」が及ぼす将来への悪影響を強く懸念**
- **② 特に「追分地区の人口構成は極めていびつ」であり、早急な対策が必要**
- **③ 出生数の維持・増加には、「出生率の向上」と「子育て世代の転入施策」の両輪が必須**

加えて、昼夜間人口比率のデータ分析から得られるキーワード

可能性 >>>

- **安平町への通勤者 1,863人**
  「町内への通勤者を定住に結びつける可能性」
  （安平町から町外への通勤者 1,133人）
- **札幌圏に近い利便性の良さ**

「子育て世代」に選ばれる町に！

国の新たな交付金を活用

３．安平町における人口減少対策（主な施策）

自然減少対策

１．子どもを生み育てる環境整備

- 特定不妊治療助成の拡充
- 子ども医療費無料化の拡充
- **●追分地区認定こども園の設置による格差是正**
- 早来地区認定こども園の民営化
- ５歳児健診の実施による発達しょうがい児支援を継続
- 多様な進学ニーズに対応した高等学校の存続（子育て世代の移住を優位に進める１８歳までの教育環境の充実）

２．いつまでも安全・安心に住み続けられるまちづくりの推進

- 地域医療体制を確保するための助成充実（休日・夜間診療継続、専門医・かかりつけ医の確保）
- 支えあいの社会システムづくり助成制度を構築
- 健康寿命延伸事業（スポーツセンターを拠点とした健康づくり推進）
- 超高齢化社会に向けた公共交通体系を再編確立（セルフケアの推進、外出機会・手段の確保）
- **●エリア放送を活用した行政情報、防災情報の提供**

社会減少対策

３．強みを生かした産業と雇用の場づくり

- ６次産業化に向けた施策の実施
  （新たな特産品開発と**道の駅を拠点とした販路の拡大**）
- 商店街の活性化、空き店舗活用

４．定住を見据えた流動人口の確保

- まちの知名度を上げ、来訪者を増やし、定住につなげる施策の体系化
- ●知名度向上を目的とした情報交流人口の拡大（ふるさと納税、**エリア放送動画の町外配信**）
- ●地域力の醸成による交流人口の拡大
  （**道の駅建設等「回遊･交流ステーション形成事業」**、観光振興、農産・特産・地域間の交流、雇用創出）
- スポーツ合宿の誘致による地域活性化（札幌冬季オリンピック誘致との連携…冬季スポーツ等の誘致・交流促進、町認知度ＵＰ）
- 新たな分譲宅地造成
- 住宅リフォーム助成の拡充（空き家対策、リフォーム移住の誘致）

安平町単独でなし得ないものは近隣市町との広域の視点で検討（雇用・地域交通・医療）

安平町の人口減少対策

- **子育て世代に選ばれるまち**
- **安全･安心に住み続けることができるまち**

になるための『３大施策』

- **①道の駅・鉄道資料館の建設**
- **②追分地区児童福祉複合施設整備に伴う公共施設集約と再配置**
- **③地域コミュニティ放送「あびらチャンネル」の整備**

安平町【道の駅】

外観図

【施設コンセプト】

- 懐かしい木造駅舎イメージを導入した施設
- 木を使ったやさしい休憩空間と情報発信空間
- D51の活躍した時代の駅を再現した休憩空間
- 「時代にふさわしい」二酸化炭素対策に寄与する施設

【道の駅の役割等】

- 町の情報発信　～　地名を全国へ
- 町の情報発信　～　町内の回遊・交流へ
- 休憩機能　～　憩いの場所へ
- 防災機能　～　災害時に活躍へ
- 自然エネルギー　～　太陽光（ｿｰﾗｰﾊﾟﾈﾙ）の活用
- 地域活性化　～　地域経済効果へ期待
- 雇用の創出　～　働く場の確保へ
- 道の駅の特色　～　鉄道文化「ＳＬ」

道の駅オープンまでのスケジュール

平成26年度　基本設計完成
平成27年度　実施設計委託
平成29～30年度　建設工事
平成30年　秋以降 オープン予定！！

資料２

配置図

ミニスキー場ゾーン

冒険広場ゾーン

柏が丘球場

位置図

小学校グラウンド

客車

貨　車

ミニSL

東日本大震災の時に道の駅って活躍したんだって！？

そうなんですよ！
被災地では避難所や仮設住宅を設置したり、周辺の道の駅では道路情報の発信や自衛隊の災害普及拠点として活躍したんですって！
安平町の道の駅では、周辺に球場やグラウンドも十分にあるし、ソーラーパネルを設置して蓄電もできるので、停電時でも安心ですよね！

国道234号

平成22年度交通量（12h）：5,261台
「道路交通センサス」

イメージ・平面図

①SLコーナー

⑦テイクアウトコーナー

⑥ライブベーカリー

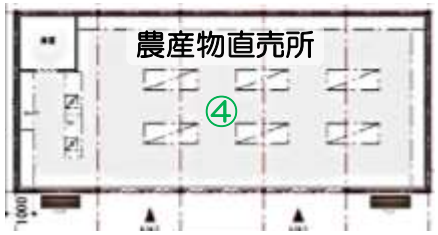
⑧情報パネルコーナー

⑤地場産品コーナー

④ 農 産 物

【施設床面積】 1,336㎡

道の駅センターハウス	827㎡	24時間トイレ	90㎡
蒸気機関車車庫	268㎡	農産物直売所	152㎡



②駅舎風休憩コーナー

③-1 休憩コーナー 施設内イメージ図

③-2 休憩コーナー 施設内イメージ図

安平町「道の駅」の営業収支はどうなるの？

現段階では、運営者や販売商品等については協議検討中だけど、収支について想定しました！

【運営主体について】

どういった形での運営が最善か、協議検討を進めていきます。

年間立寄想定人数

320，000人

当該計画地の交通量（12h）は平成22年度で5,261台です。
※上記台数から休日平日に分け１台当りの乗員を掛けた結果である！
道の駅の魅力によっては、まだまだ立寄り人数が増えるぞ！！

人件費を抑制しながら雇用対策は考えてるよ！

＜営業収支想定表＞

（単位　千円）

項目		金額	備考
売上高	テイクアウトコーナー	36,715	ドリンク、スイーツ、料理等
	地場産品コーナー	43,200	特産品（菓子類等）
	ベーカリー	36,000	パン
	自販機コーナー	6,912	ドリンク
	農産物直売所	46,080	野菜等
合計 ①		168,907	
材料費	テイクアウトコーナー	10,733	
	地場産品コーナー	30,240	
	ベーカリー	16,200	
	自販機コーナー	5,184	
	農産物直売所	34,560	
	計	96,917	
人件費	社員給与	14,100	4人
	パート給与	19,200	10人（7～13人）
	その他	5,994	福利厚生、通勤費等
	計	39,294	
経費	客用消耗品費	5,067	
	一般消耗品費	600	
	広告宣伝費	960	
	水道光熱費	7,690	
	地代家賃	8,445	
	その他	6,000	リース料・通信費・事務費等
	計	28,762	
合計 ②		164,973	
営業損益 ①－②		3,934	

＜概算工事費＞

（単位　千円）

項目	金額	備考
道の駅本体等工事費	571,868	道の駅、農直、SL車庫
外構工事費	159,610	駐車場、SL関連、太陽光
付属工事費	55,000	看板、SL移設費
その他備品購入費	50,380	什器備品、厨房器具等
設計管理費	52,830	実施設計費、工事管理費等
合計	889,688	

※国費：約220百万円

公共施設再配置資料 【追分地区認定こども園＜１階平面図＞】

■追分地区認定こども園

【定員】90 名
【事業】認定こども園
・保育所:0~就学未満
・幼稚園:３歳児、４歳児、５歳児
・一時預り、休日保育
・子育て支援センター(２階)

【設備】
・０~1 歳児乳児･ほふく室
・2 歳~5 歳児各保育室
・一時預り室
・遊戯室
・3 歳未満児給食用調理室
※3 歳以上児は学校給食供給
・職員室、相談室
※通園バス 2 台整備予定

公共施設再配置資料【児童館･放課後児童クラブ･子育て支援センター＜2 階平面図＞】

■追分地区児童館

【定員】なし
【対象】0 歳~18 歳
※就学前乳幼児は保護者同伴

■追分地区放課後児童クラブ

【定員】90 名
【対象】1 年生~6 年生

■子育て支援センター

【定員】なし
【対象】幼稚園等に通園していない子とその保護者

資 料 3

追分地区児童福祉複合施設整備プラン

①少子化で子どもが減っている。若い女性が住んで働いて結婚して、安心して子どもを育てる環境を整えなきゃ…

②幼稚園の老朽化と耐震工事も何とかしなきゃ…でも、子どもが減ってるし…

③公共施設の再編、統合も考えなきゃなぁ

④早来地区と追分地区の保育サービスを均衡化･･･追分地区に３歳児教育、一時預り、休日保育を整備しなきゃ…

子育て支援担当者の悩み

⑥放課後児童クラブの利用対象が小学３年生から６年生まで拡大されて、今の児童館じゃ入りきらないし…

⑤認定こども園をやってくれる追分保育園からは隣接している場所という希望だよなぁ…

⑦保育所と児童館が点在しているから、お迎えがいっぺんにできないよなぁ…

⑧小学校入学の時、環境の変化についていけない子が増えているよなぁ･･･

追分庁舎を使えたらすごくないですか？

追分庁舎も公共施設ですよね。

追分庁舎を児童福祉複合施設に整備すると…

・追分地区行政の象徴が子どもの象徴になる → 子育て環境が整備･拠点化され、子育て世代に分かりやすい
・追分庁舎の耐震工事はあまり経費がかからない → 幼稚園の改修･耐震工事に二重の経費がかからなくなる
・追分庁舎という最大の公共施設の再編、活用につながる → 遊休空間の整理、活用ができる
・認定こども園、児童館･子育て支援ルームを統合 → ３歳児･一時･休日保育、放課後児童クラブの課題解消
・子育て支援の複合施設が整備される → 公共施設の利活用と早来地区との保育サービスの均衡化が図られる
・保育所も放課後児童クラブもひとつの建物に入る → 重複利用が多い保護者のお迎えなど利便性が上がる
・同年齢の子どもたちが、同じ質の就学前教育、保育を受けられる → 小１プロブレムの解消につながる
・放課後児童クラブの受入拡大に伴う待機児童の解消とニーズ量に対応できる → 子ども･子育て支援計画実行
・追分保育園に隣接している → 運営事業主体となる法人の希望が叶う

ほとんどが、解決される！

統合対象事業と児童福祉複合施設見取図

■放課後児童クラブ(公立)
追分中央 1-40 児童館併設
<定員>30 名　<対象>1 年生~3 年生
※H27 から 1 年生~6 年生対象
<開設>通年(日曜、祝日、年末年始休業)
<職員>指導員 1 名,
<利用>H24:19 名,H25:20 名,H26:19 名

■追分児童館(公立)
追分中央 1-40 ぬくもりセンター内
<定員>なし　<対象>0 歳~18 歳
<開設>通年(日曜、祝日、年末年始休業)
<館長>非常勤
<職員>児童厚生員 2 名,
<利用>H24:32 名,H25:34 名,H26:34 名

■子育て支援センター(公立)
追分中央 1-40 ぬくもりセンター内
<定員>なし
<対象>幼稚園等に通園しない子とその親
<開設>通年(日曜,祝日,年末年始,別事業日休業)
<施設長>非常勤
<職員>指導員 1 名
<在籍>H24: 6 組,H25:5 組,H26:5 組

■追分保育園(私立) 追分本町 6-24
・認可保育所
<定員>45 名　<対象>0 歳~就学前
<開設>通年(日曜,祝日,年末年始休業)
<園長>常勤
<職員>保育士 5 名,調理員 1 名,事務員 1 名
<利用>H24:40 名,H25:34 名,H26:46 名

■追分幼稚園(公立) 追分柏が丘 22
・2 年制幼稚園
<定員>60 名　<対象> 4 歳児、5 歳児
<開設>通年(日曜,祝日,長期休み,年末年始休業)
<園長>常勤
<職員>園長 1 名,教諭 2 名,事務員 1 名
<利用>H24:18 名,H25:11 名,H26:12 名

■旭保育園(公立) 追分向陽 865-6
・季節保育所
<定員>30 名　<対象>1 歳~就学前
<開設>3 月~12 月(日曜、祝日,夏季、年末年始)
<園長>非常勤
<職員>保育士 3 名,調理員 1 名
<利用>H24:10 名,H25:12 名,H26:16 名

追分美園
追分向陽
追分豊栄
追分柏が丘
中央

安平町役場追分庁舎

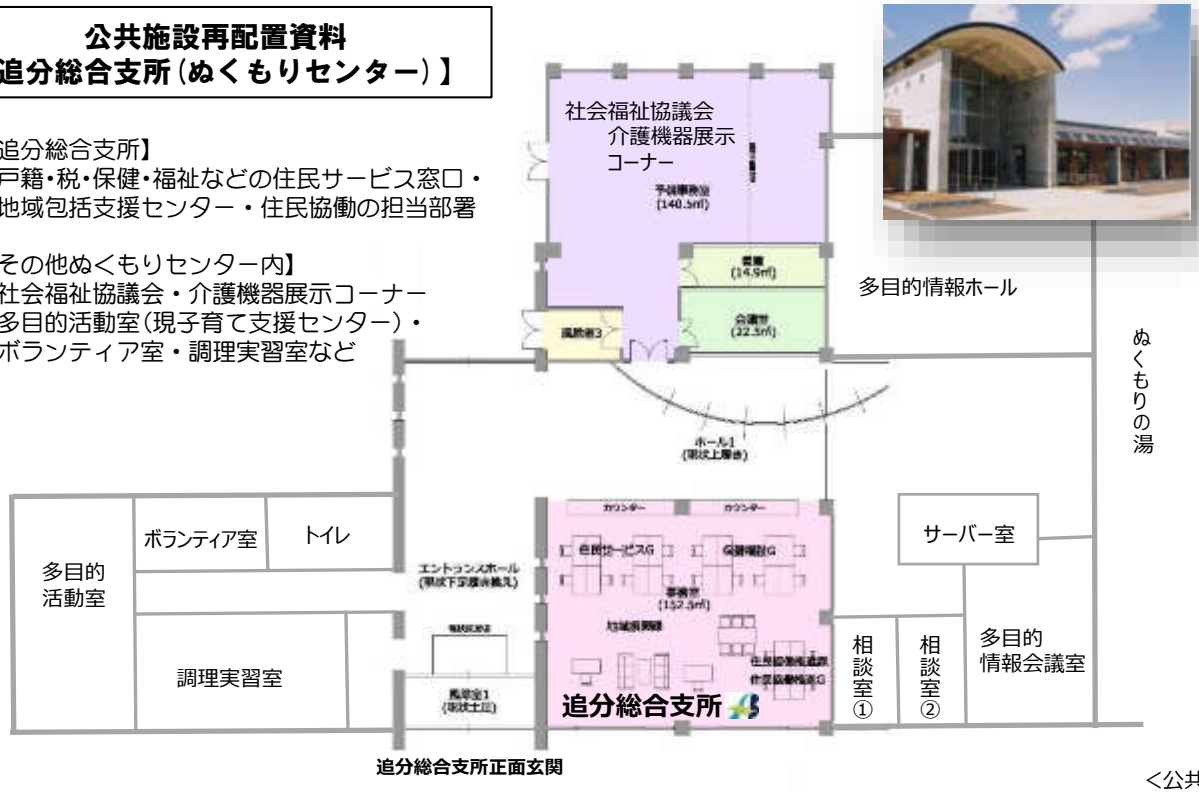
児童福祉複合施設整備改修見取図
概算工事費 403,316 千円（実施設計、改修工事等）

資料４

公共施設再配置資料【追分総合支所（ぬくもりセンター）】

【追分総合支所】
＊戸籍・税・保健・福祉などの住民サービス窓口・地域包括支援センター・住民協働の担当部署

【その他ぬくもりセンター内】
＊社会福祉協議会・介護機器展示コーナー
＊多目的活動室（現子育て支援センター）・ボランティア室・調理実習室など



追分総合支所正面玄関

○追分総合支所の基本的な考え方
＊ぬくもりセンターを有効活用するため、既存の施設をできるだけ活かした改修とする。
＊追分地区の役場機能や福祉機能を集約するとともに、地域活性化の担当部署を配置する。
＊転出入に伴う手続きのワンストップサービスが可能な体制とする。

○追分総合支所の主な機能（職員数約２０人）
＊現在の追分庁舎と同様、住民サービスの手続きを行うことができるように窓口機能を全て配置。
＊地域の活性化に資するよう、住民協働や地域コミュニティ等の担当部署を配置。
＊追分地区の高齢化に対応するため、包括支援センター機能を配置。

○ぬくもりセンター内のその他の機能
＊多目的活動室（現在の子育て支援センター）を、保健福祉等の各種事業を実施するスペースとして活用。
＊社会福祉協議会、介護用品展示コーナーを配置。

○完成予定年月
＊平成２８年３月（内部改修）
H28.4～H30.3　現在の健康福祉課と建設課を仮配置
H30.4～　追分総合支所としてスタート

○概算工事費
＊40,984千円（内部改修・外部改修）

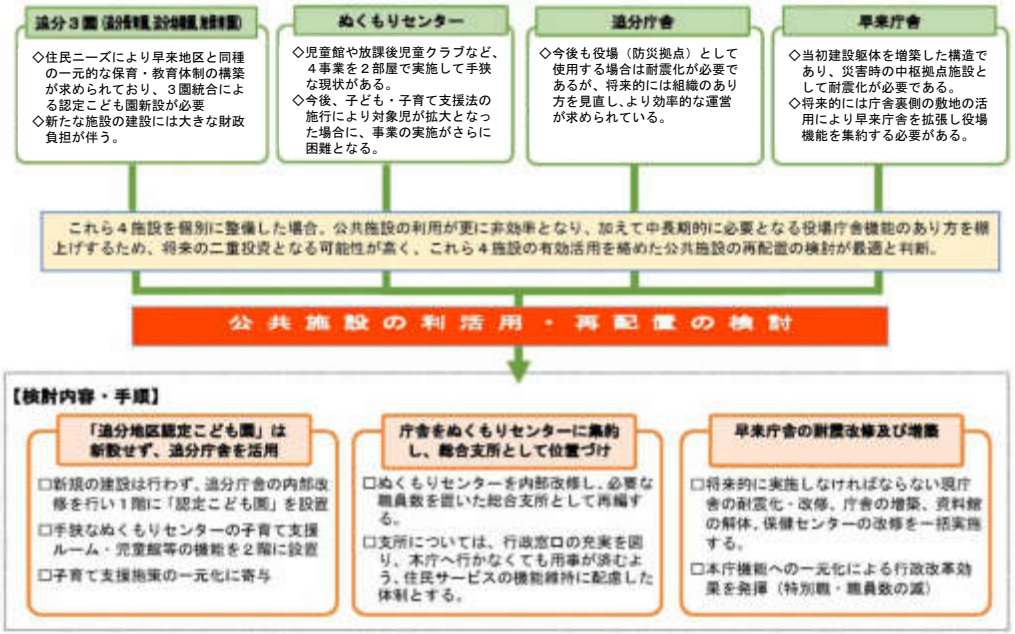
公共施設再配置資料　【追分公民館】

○追分公民館の基本的な考え方
＊教育委員会事務局は早来庁舎へ移るが、従来同様に、住民の社会教育活動の場としての機能と追分地区の教育関係の窓口の機能を維持することができるよう配慮する。

○追分公民館の主な機能（職員数約５人）
＊公民館事業を担当する社会教育と追分地区の教育の窓口となる部署を配置。（早来庁舎の教育委員会事務局と連携）
＊追分地区の教育施設やスクールバスを管理する部署を配置。

○移行予定年月
＊平成３０年４月

＜公共施設再配置の現状と課題＞



公共施設再配置資料　【早来庁舎】

○早来庁舎の基本的な考え方
＊現在の早来庁舎を耐震補強し、長寿命化を図る。
＊来庁者の利便性を考え、窓口機能を集約する。
＊相談スペースを整備する。
＊エリア放送スタジオやホールなどを活用し、町民の活動の場を創造する。
＊駐車場を増設するとともに、ロードヒーティングで来庁者の安全に配慮する。

○完成予定年月
＊増築庁舎：平成２９年５月頃
一部の機能を配置
＊現　庁　舎：平成３０年３月頃

○新組織体制スタート年月
＊平成３０年４月

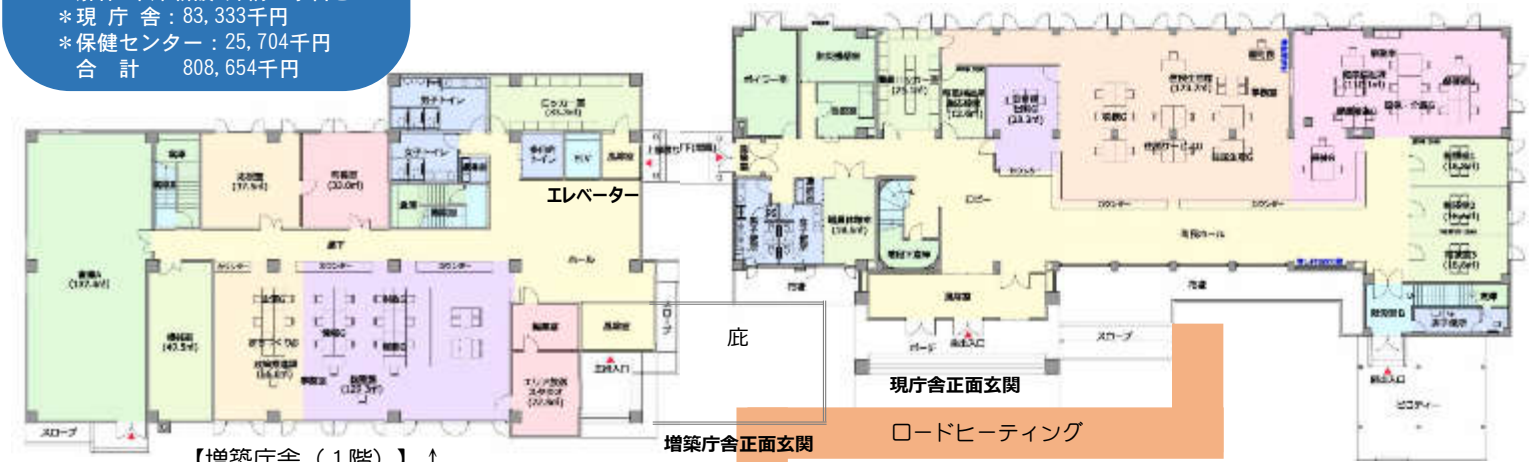
○概算工事費
＊実施設計費：31,418千円
＊増築工事：668,199千円
解体･車庫新設･外構工事含む
＊現　庁　舎：83,333千円
＊保健センター：25,704千円
合　計　　808,654千円

【増築庁舎（２階）】↑
＊教育長室・教育委員会事務局
＊大会議室・書庫など

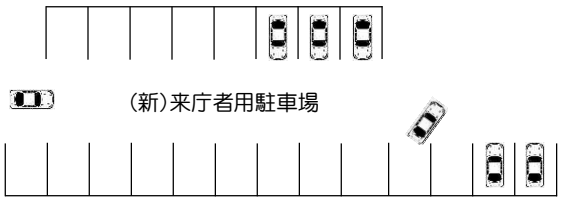
【現庁舎（２階）】↑
＊議会事務局と建設・水道・農林などの現業部門

保健センター
（トイレを洋式に改修）

【現庁舎（１階）】↓
＊戸籍・保健・福祉・介護・税務などの住民窓口関係



【増築庁舎（１階）】↑
＊町長室・総務・企画・財政などの管理部門
＊エリア放送スタジオ・書庫など



来庁者用駐車場

保健センター
（トイレを洋式に改修）

＜喫緊の課題＞
＊追分地区認定こども園の新設
＊児童館など子育て支援施設の充実
＊早来庁舎の耐震化
＊ぬくもりセンターの利活用

＜将来的な課題＞
＊両役場機能の統合
＊追分地区庁舎機能のあり方
＊追分庁舎を将来的にも防災拠点となる役場庁舎として使用する場合は耐震化が必要

<u>これらの課題に対応するため</u>

①追分庁舎を活用した認定こども園への改修
②ぬくもりセンター内への追分地区行政機能の集約と防災拠点化
③早来庁舎の耐震改修と庁舎の増築（役場機能の統合）

資　料　５

地域情報コミュニティ放送「あびらチャンネル」の整備について

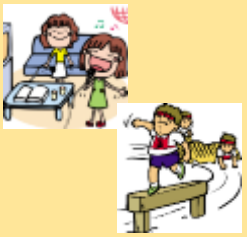
町では、まちの多彩な情報を家庭のテレビへ放映する、独自放送「あびらチャンネル」を３月１日に放送開始しました。このあびらチャンネルは、地上デジタルテレビの空き周波数を利用する「エリア放送」活用するもので、災害・行政情報の配信だけではなく、地域の行事や住民の皆さんの活動を紹介するなど、地域に密着したテレビ放送として地域活性化に役立てる考えです。

【あびらチャンネルでできること】

あびらチャンネルは、「地域で創るテレビ放送」として、町内の出来事や行事はもとより、町民の皆さんが持ち寄った楽しいビデオや商店街のお得情報などで、地域を明るくする番組を放送します。

■町民による町民のための情報番組

- 町内団体の活動や募集など
- 運動会や学芸会など学校行事
- 健康づくり、スポーツ教室
- 町内商店街の特売広告やイベント告知
- 町内会情報や地域内の告知
- 芸能発表や地域スポーツ大会など
- 町特産品を用いた料理番組



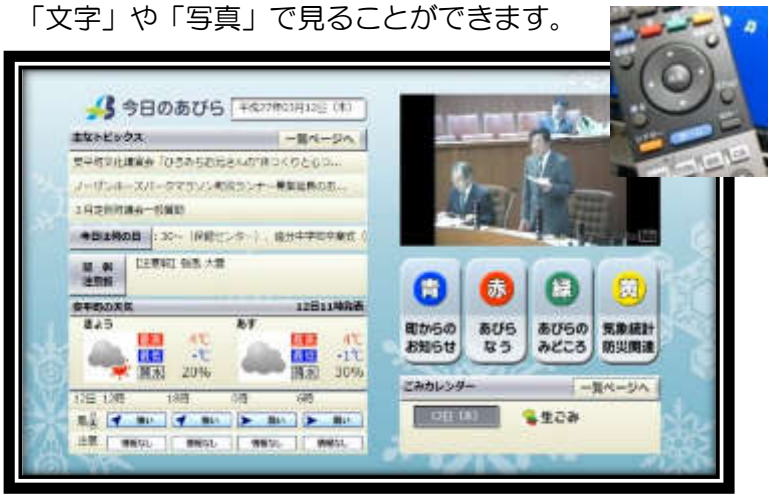
■あびらチャンネルの番組編成（３月開局時）

放送予定	番組内容
アビラのできごと	約２週間分の町内のできごとを放送。
あびらチャンネルスペシャル	町内イベント、行事を特別番組として、イベント全容を放送。
あびらのちから	町内で活動する団体の活動を紹介する番組。随時出演団体を募集中。
体操教室＆貯筋教室	せいこドームで行われている、ストレッチ教室を番組化したもの。
サイエンスチャンネル	独立行政法人科学技術振興機構より提供された科学技術の普及などを目的とした教育番組

※太線黒枠内が総務課で作成した番組（計２時間程度）

【あびらチャンネルの画面は？】

「通常放送」と「データ放送」の２画面で構成され、リモコンの“ｄボタン”により切り替えます。データ放送では、インターネットのホームページのように見たい情報を「文字」や「写真」で見ることができます。



例えば）

■町からのお知らせ：当日の生活情報やイベントなど、パソコンがなくてもホームページと同じ情報

■天気情報：安平町に限定した詳しい天気情報や警報・注意報、雷や風・霧のほか、異常天気の予測情報、積雪情報など、生活に役立つ気象統計情報

■ゴミ情報：当日集配種別のほか、カレンダー形式で１月分確認できます。

■あびらなう：町民誰もが特派員となり、だれかに伝えたい身近な情報

■まずは遠浅地区から

平成 26 年度に整備した放送局は７局で、先行地区として、遠浅・源武及び富岡地区の一部で３月１日から放送を開始しています。最終的に安平町全域を放送エリアとするには、約３０局の放送局設置が必要で、全局設置まで複数年かかると考えています。町内を３ブロックに分け、平成 27 年度以降段階的に拡大整備する計画です。

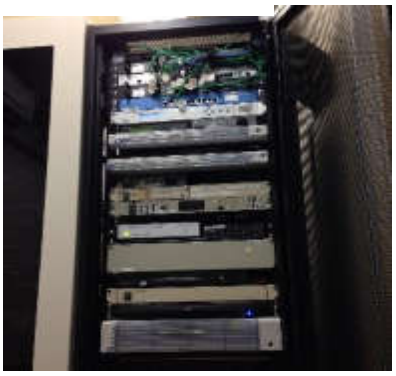
■概算工事費

項　　目	事業費	備考
整備済み工事費等	１０４，９７６千円	遠浅地区
今後の整備工事費	３９５，３０２千円	追分地区、早来地区、安平地区
合計	５００，２７８千円	

【Ｈ２７年３月現在の視聴エリア図】

【基地局】

【センター設備】



※インターネットでの視聴方法

下記の URL（あびらチャンネルのアドレス）を入力します。

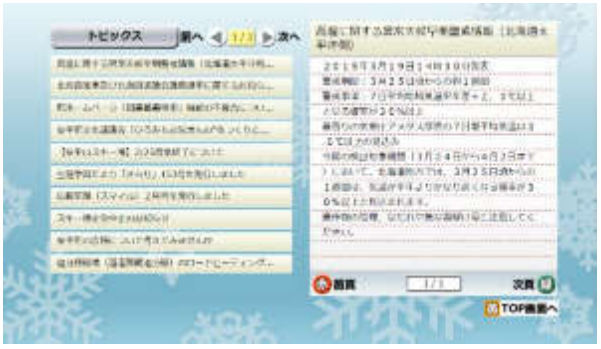
URL：http://www.town.abira.lg.jp/signage3/cms/html/signage/

■データ放送の画面遷移について

通常放送

【トップ画面】

①【お知らせ】青ボタン



②【みどころ（特産品等）】緑ボタン

③【気象統計・防災】黄色ボタン

通常放送トップ画面

・お知らせ一覧からトピックスとして最新の情報を３件掲載。
・天気予報（今日・明日）、風向きと強さ、気象に関する付加情報（霧、雷など）
・当日のゴミ情報（一覧を選択で、１ヶ月分のゴミカレンダーが表示）

①お知らせ画面（青ボタン）

インターネットでしか見ることができない町ホームページのお知らせや町公式フェイスブックページの情報を見ることができます。

②あびらのみどころ（緑ボタン）

あびらのみどころと題し、町の特産品や観光施設、飲食店などの紹介をしています。テレビデータ放送はもちろんのこと、庁舎やぬくもりセンターなどに設置しているサイネージ（大型モニター）で観光客などにご覧いただくことも想定しています。

③気象統計・防災（黄色ボタン）

安平町に特化した気象情報の提供を行います。レーダーナウキャストでは、１時間先までの雨雲の動きや、雷の発生状況をお知らせします。また、統計情報として、積雪情報（初雪、根雪）をグラフでお伝えします。そのほか平時から、避難所の情報を確認することができます。

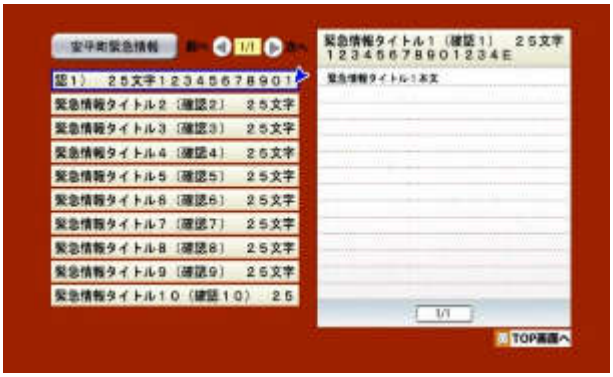
※赤ボタンの「あびらなう」は準備中です。ここでは町内の出来事や話題などを自由に文字と画像で投稿できる掲示板です。

緊急放送

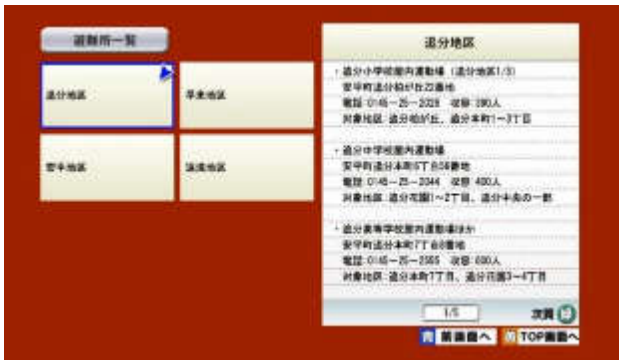
緊急地震速報や特別警報が発令された際に、自動的に災害情報画面に切り替わります。

【トップ画面】

①【緊急情報お知らせ】



②【避難所一覧】※カラーボタンに対応



緊急情報トップ画面

トップ画面では主に次の情報を確認できます。

・町からの緊急情報。（フェイスブック等に掲載する情報もすべて掲載されます）

・カラーボタンにより各地区の避難所を確認できます。

①緊急情報

緊急情報の詳細なお知らせを確認できます。Ｊアラート（全国瞬時警報システム）で町が受信した緊急情報（緊急地震速報、特別警報など）が自動的に流れるほか、町で発表する避難情報や災害に関する情報を確認することができます。

②避難所一覧

避難所を一覧として確認することができます。カラーボタンでそれぞれの地区ごとに確認できます。（※青：追分地区　赤：早来地区　緑：安平地区　黄：遠浅地区）